

# 茨城論壇

恩物（幼児玩具）については、発明者のフレイベル夫妻を紹介し、夫妻は、人間の心身の発育も草木発生の理に等しいことを悟り、幼児に適した玩具を制作し、遊戯を組み合わせた幼児自ら使用し導き出し、幼児の成長を助けるための基礎とした。しかし、「恩物の使用を上手く使用出来ない人もいて、恩物が却って子どもの発達を妨げるものであると認識する人もいることもやむを得ないことである」と書き、保母自身が、恩物を「活動視」し、生き生きとしたものとして扱わなければならないとしている。

フレイベルの説により、恩物を三つの種類に区別。一つ

茨城女子短期大名誉教授

小野 孝尚



は、知識（数量の学習）の開発、二つは、技能（生活の再学習）の開発、三つは、美術心（形を表現）を開発することにあるとして、以下恩物の順序を挙げてそれぞれについて説明をしている。

## フレイベルの思想導入

英雄は、松野クララから直接フレイベルの教育主義を指導され、フレイベルは、幼児教育は遊びを通して行うもの、感覚と感性を大切にしよう。

英雄は、「幼稚園」についての記述に、1890年9月6日発行の『女学雑誌』第229号に「幼稚園」と題して、「子女の始めて父母の膝下を離れ社会に出る第一の初等級ともいふべきものは彼の幼稚

あろう。同じく『女学雑誌』に掲載された「幼稚園」には、「唯身体の強健と良心とを涵養して天賦の活動発育を助け児童の精神をして毎に爽快の間に措かしむるを旨とすべきなり。（即ち知育的に陥るもの）戒めざるべからず」としている。これも英雄の一貫した教育理念となるものであり、最も早くから説かれているもので、生涯にわたりぶれることのない英雄の教育理念の根幹をなすものである。

整頓する規律を実行し、又、美術への想いが必要である。そして又、説話を明らかに為すことを望むなり。空談を為すよりも、図画、博物或は標本に就きて説話するを良しとす」としている。

おの・こつしよつ＝茨城女子短期大名誉教授＝1944年生まれ。水戸市在住。大正大大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。茨城女子短期大前学長。2017年「茨城の近代詩人群像」、19年「幼児教育・女子教育の先達 豊田英雄とその時代」を茨城新聞社から出版。茨城の文学研究をライフワークとし、豊田英雄の教育理念の次世代への継承と顕彰活動に努めている。

園なり」と書き、次に「幼稚園なるものは、取も直さず児童の発育する一つの庭園なれば、これが管理者即ち保母なる者は園芸師なる故に保母の目的とする所のは、技術に非ず、才学に非ず。只管自己の温和と徳儀とを充実せし精神を以て児童の発育を開誘（教導くこと）し」とあり、「保育の葉」冒頭の「幼稚園」の内容と一致するものが

深く物事に注意周到にして能く忍耐し、恰も「春霞の朗霞たる如く精神常に爽快にして」且つ音楽唱歌に熟練し、遊戯と恩物の使用法とに熟練。常に清潔を愛し、物事の秩序を正しくし、事物を能く

「保育の注意」では、子どもの病気やけがのことをまず挙げ、観察と看護を怠らないように注意し、応急手当ての方法をわきまえ冷静に対応しなければならないとしている。